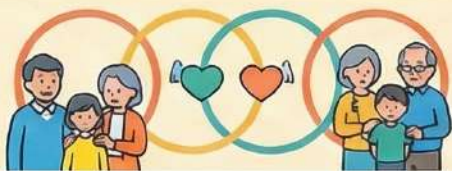


デジタルで紡ぐ「令和の近隣互助」：はすが丘モデルを目指す安心の形

【現状と課題】昭和の「密」から令和の「個」へ

昭和の「密」：家族・地域による保護



令和時代はプライバシー尊重の反面、地域との繋がりが絶たれ孤立者が増加。

デジタル化を阻む「管理の壁」



令和時代はプライバシー尊重の反面、地域との繋がりが絶たれ孤立者が増加。



名簿がバラバラで役員の食担が重く、既存ツールでは個人情報管理に限界。

令和の「個」：「個人の責任」と孤立



元気の源は「会話」と「外出」という刺激

93歳の義母の事例から、他者との交流が心身を劇的に回復させると判明。

【解決策】はすが丘モデル：4つの安心機能

1 「おはよう」ボタン
一つの安否確認



スマホを開いてボタンを押すだけで、自治会や社協に元気を伝える仕組み。

2 属性に合わせた
「ゆるやかな見守り」



セキュアな住民名簿と運動し、福祉委員が「気がり」を即感に共有。

3 災害時の一斉プッシュ通知



発災時に全住民へ通知を送り、回答結果をリアルタイムで地図上に可視化。

4 システムの階層構造と役割

